

お互いさま

otagaaisama

恵みあい、助けあう

理事長インタビュー

地域で共に生き、助け合う
“お互いさま”の心

こうほうえんの取り組み

キラキラ働き人 特別対談

中国の蘇州で
技術指導をしてきました。

地域で共に生き、助け合う 〳お互いさま〳の心

互／恵／互／助

理事長

廣江 晃

米子市出身。医学博士。全国社会福祉法人経営者協議会評議員、ICT戦略等特命チームリーダー、鳥取県社会福祉法人経営者協議会副会長などを務める。2020年7月より現職。

わたくしたちは、
地域に開かれた、地域に愛される、
地域に信頼される、
『こうほうえん』を目指します。

社会福祉法人こうほうえんは、養和病院（旧米子脳病院、広江病院）を母体に昭和62年4月に設立されました。当時は本格化する高齢化社会に対応するために、国を挙げて急ピッチで高齢者福祉政策の整備が進められていた時代。同院では創立の節目にあたり「支えてくれた地域への恩返しとして、特別養護老人ホームを運営し地域住民の支えにならないか」と境港市に『特別養護老人ホームさかい幸朋苑』を開設し、翌63年から事業を開始。社会福祉法人としての一歩を踏み出しました。「私たちは地域の一部となり、地域の皆様と一体となつて歩むことを目指しています。非営利法人として、社会福祉分野で地域に足りないものや変化が必要なものをサービスとして提供するために常にトライしてきました」と廣江晃理事長はこれまでの歩みを振り返ります。

現在、介護、保育、医療、障がい者支援、地域総合支援といった総合福祉サービスを提供。鳥取県西部・東部のほか、平成19年以降は介護、保育サービスの

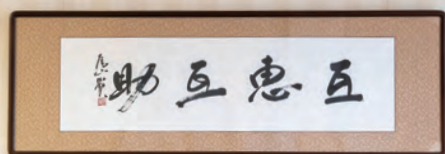
不足が特に顕著な東京都区内にも進出し、大きく8つのエリアで事業を展開しています。

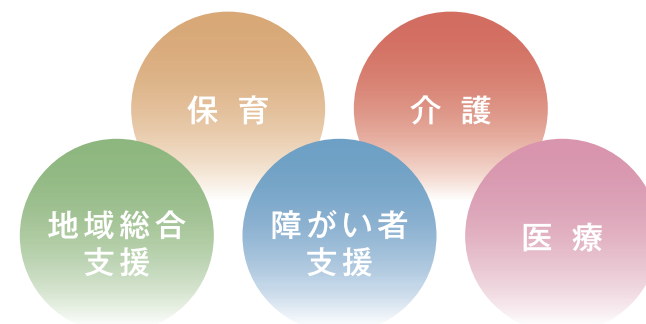
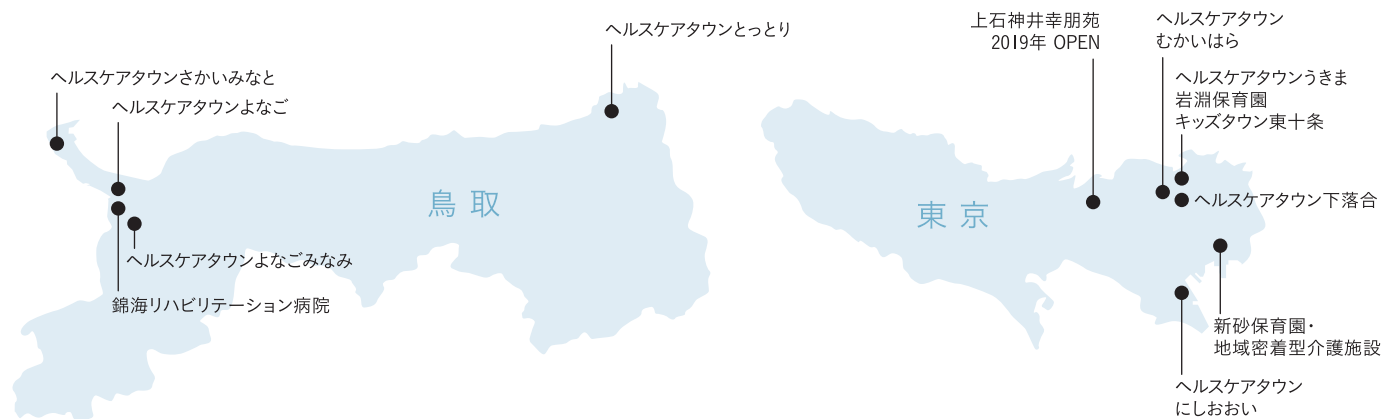
地域社会に 相互互助の関係を創る

私たちは設立以来、先代理事長が掲げた「相互互助」の精神を大切に守り、実践してきました。「お互いに恵み合い、お互いに助け合う〳お互いさま〳の関係を地域の中に創出したい」との思いから、例えば幅広い世代間の交流や地域のボランティアの受け入れ、豪雪時の雪かき、保育園や施設のイベントの開放、地域包括支援センターの受託、福祉避難所として地域との防災協定の締結、学習支援など、大小さまざまな形で地域の皆様とかかわり、関係を築いてまいりました。便利さと同時に息苦しさを感じる現代社会の中で、〳お互いさま〳の心を持つて地域の中で共に生き、ゆるし合いながら、生活する。職員たちにも、こうした気持ちをベースとして持つてほしいと伝えています。

次の時代の 新たなサービスを

当法人が設立された30年以上前は、「自分の親を施設に預ける」と言う世間に眉をひそめられたものです。それから社会は変わり、高齢者福祉施設が整備され、介護保険制度の運用が始まると、施設を利用することが当たり前前の時代になりました。その一方で、今も在宅介護を希望する方は多くいらつやいます。現在、介護現場のICT化は目覚ましい発展を遂げています。「住み慣れた家で最期の時まで過ごす」という選択肢を安心して選べるように、次のステップとしてICTや新たなサービスを活用して在宅介護の限界点を上げることを目指し、すでにプロジェクトは動き始めています。





サービス業のプロとして、

正しい情報を伝達し、自分が受けた

保健、医療、福祉サービスの提供・改善に努めます

こうほうえんの 取り組み

K O U H O U E N

介護

**設立以来、
鳥取から介護業界をリード**

社会福祉法人こうほうえんは昭和62年に設立し、介護事業からスタート。特別養護老人ホームのような基幹的な入所施設を中心に、デイサービスや通所リハビリテーション、訪問看護などの介護サービスを総合的に展開。地域に根差し、鳥取県東部・西部と東京都区内に168の介護事業所を運営しています。

同法人では設立以来、リーダーシップを持つて鳥取の地から介護業界を牽引してきました。今年で25回目を迎えた法人研究発表会は、職員たちが調査、研究した成果を発表し、外部にも開放してエビデンスに基づいた介護を広く発信しています。また平成22年から主幹する「オールジャパン



医療

**住み慣れた場所への
早期復帰を支援**

平成18年に開院した『錦海リハビリテーション病院』は、脳卒中、骨折術後などの回復期にある患者を対象に、集中的に回復期のリハビリテーションを実施し、早期の在宅復帰と社会参加を目指すリハビリテーションの専門病院です。言語聴覚士、理学療法士、作業療法士らリハビリテーションの専門家が充実し、手厚いケアが特徴です。



東京

うきま幸朋苑(北区)

平成19年に開設以来、北東京エリアの拠点として、介護・障がい・保育の事業活動を相互に連携をとりながら実施しています。



上石神井幸朋苑(練馬区)

住宅地の中に高齢者に特化した拠点として、緑と木の温もりを感じる木造施設を令和元年に開設。特別養護老人ホームとショートステイのサービスを提供します。



新砂保育園(江東区)

公設民営園として、産休明け保育、2時間延長保育、特別支援児童保育、緊急一時保育、病後児保育を実施しています。



キッズタウン下落合保育園(新宿区)

介護施設が同じ建物にある複合施設の保育園。地域や高齢者とのふれあいの中で人との繋がりを大切にする子どもを育みます。



保育

**地域が安心できる
子育て環境**

平成14年、米子市内に中四国地方で初めての24時間対応型の認可保育園として『キッズタウンかみごとう』を開設。平成19年、東京都北区に介護事業所に併設して保育園を開設し、以降、保育園不足が深刻な東京都区内を中心に保育事業を展開しています。平成25年に米子市内の保育園が民間委託され、『キッズタウンさくら保育園』を開設。キッズタウンかみごとう・さくらはその後、認定こども園に移行しました。現在は米子市と東京都区内で計12の保育事業所を運営し、園児たちと介護サービスの利用者との世代間交流が行われ、キッズタウンかみごとうには子育て支援センターを併設しています。各地域のニーズに合わせて365日開園、夜間保育や日祝の休日保育を受け入れるなど、未就学児の子育てを包括的に支援しています。



地域総合支援

**「互恵互助」の
地域社会を築く**

社会福祉法人としての使命を果たすために、平成26年に地域貢献活動を専門的に行う地域総合支援室を開設。法律制度にかかわりなくあらゆる相談を受ける「総合相談」、子どもの学習支援や子ども食堂、低所得者や出所者の居住支援、就労支援、生活支援などの「総合支援」を行い、地域との真の「互恵互助」の関係を目指しています。



4ヵ月間の中国派遣

蘇州には昨年10月から4ヵ月間滞在し、『天易介護院』と『瑞園』という2ヵ所の施設で研修やご利用者のケアを実施。新型コロナウイルス感染症が心配されましたが、経由地の上海と蘇州でそれぞれ2週間の隔離期間を経て、研修に入りました。中国はITを活用したコロナ対策で封じ込めに成功し、国民の多くは地下鉄などの限られた場所でしかマスクを装着していません。一方で介護とリハビリの分野は発展途上にあり、派遣職員は現地の状況に合った方法を試行錯誤しながら

臨機応変に指導。通訳を介して研修が行われましたが、蘇州の人たちはこの地方の蘇州語を使うので通訳にもわからない言葉があり、言葉の面の苦労もありました。車いすの移乗、口腔ケアなどの技術的なことから、声掛けの大切さ、職種にかかわらず職員全員でご利用者にかかわるといった考え方についても発信していきました。徐々に現地の職員の心に日本の考えが広がっていき、帰国後もSNSを通じて現地の職員から相談が寄せられています。



中国の方たちと記念撮影



初日打ち合わせ



口腔ケア実地勉強会



瑞園オープンセミナー



帰国前セミナー



移乗の勉強会

中国の蘇州で
技術指導を
してきました。

戸田悦子さん

介護老人保健施設よなご幸朋苑勤務。介護課長として、施設運営や人材育成、研修の運営などに携わり、介護現場の責任者を務める。

★★★★
＼キラキラ／
働き人
特別対談
★★★★

児島吉功さん

錦海リハビリテーション病院、介護老人保健施設さかい幸朋苑勤務。言語聴覚士。施設内のリハビリのほか、地域での介護予防の教室を担当。

中国の介護の現状を知る

児島 昨年、中国の蘇州天易養老とパートナーシップを結んでから初めて現地での技術指導でしたが、実際に現場を目にすると日本との違いに戸惑い、われわれ2人、日々頭を悩ませましたよね。

戸田 中国は介護の国家資格がなく、お世話をする人は専門知識がいままケアをしていました。ご利用者の居室に宿泊する24時間勤務で、必要な時だけ介助し、あとは自分の時間として使っていて、昔の病院の付き添いさんに近いものでしたね。

児島 中国の老人ホームである養老院は療養病棟と老健、特養の用途を合わせたような施設で、日本にはない形態。その部分も戸惑いました。蘇州は人口1000万人の大きな町ですが、派遣された施設も600床とかなり大きな規模でしたね。

戸田 ご利用者の数に対して車いすが足りておらず、寝たきりの方がすごく多いことにまず驚きました。体を起こすことはとても大事だと伝えても、そもそも車いすがないので実践ができないんですよ。介護に関しては日本の20～30年前と同等と聞いていましたが、現状を目にして初めて実感しました。

で淡々と効率的にこなすというか……。

児島 効率もすごく大事ですが、帰国して日本の介護、リハビリを見ると「日本人は基本的に人が好きなんだな」と感じます。体を起こすときに自然にそっと手を添えたり、声をかけたり。ご利用者は本当に楽しくて笑っているんだと嬉しくなりました。

帰国後、種の芽吹きを感じる

戸田 考え方の違いや言葉の壁もあって難しさを感じる場面は多々ありましたが、でも中国の方は「良い」と思ったところからはすごく早い。ITなどもそうですね。中国はどこも電子決済ですし、身分証明もスマートフォンの中。施設の80歳のおじいちゃんおばあちゃんがスマホで動画やSNSを楽しむなんて、日本ではまず見られない光景です。

児島 あのスピード感は見習いたいですよね。最新のものに敏感で、リハビリ機器にもすごく興味を持ってくれました。やると決まればすごく速いので、今回はその前段階として、土壌をつくって種を撒いてきたという印象です。

戸田 まず価値観が違うところに日本の手法を定着させようとしても無理があるの、中国の実情に合わせた研修や技術を提供しつつ、根本の日本式の考え方を知ってもらうところからでした。

職員の声

日本も中国も、ご利用者は家に帰れなくて困っている点は同じ。これからも力になりたいです。また外を知ったことで、内を知ることができました。改めて施設の外に意識を向けて、病気や寝たきりの予防になる活動に取り組みたいです。

ご利用者本位の大切さ

児島 施設の建物の床は大理石、中庭は滝が流れていてとても立派でしたが、本当に大切なことは「ご利用者にどういう意味があるか」なんですよね。大理石は転倒の危険があるし、庭の石畳は車いすでの自走が難しい。日本の介護が培ってきた一つ一つに意味があることを改めて認識しました。

戸田 国民性の違いもあり、「ご利用者のため」よりも職員や外からの見た目が優先されて、それはケアやリハビリでも同じことが言えました。日本だと声掛けをすごく大切にしていますが、中国の介護現場では会話があまりなくて、あくまでも仕事として

ね。その種も少しずつ育つてくれて、帰国後もいろいろな相談が来いています。

児島 食事のことやアクティビティなどの相談が来ますよね。送ってもらった写真を見ると、寝たきりの人たちがばかりだったのが、カラオケや体操、中国らしく麻雀を楽しんでいて、工夫しているのが伝わります。せっかく撒いた種なので、お水や肥料をあげて、収穫できるところまで育てたいです。

戸田 そうですよ。今後も中国派遣は行われると思うので、多くの職員がかかわれるようにしていきたいです。日本の介護やリハビリの良さ、自分たちの施設の良さを再認識できる機会にもなりますから、中国で多くのことを体験し、学んでほしいです。

職員の声

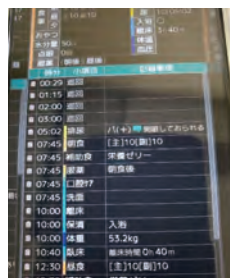
日本は介助をする時、自分の動作を言葉にしてご利用者に伝えます。心のつながりがあってはじめて会話、介護、リハビリができるのだと帰国後に強く思いました。それは日本の介護のとても良いところですから、大事にしていきたいです。

記録と気づきが入力できるアプリ ＜MIMOTE(ミモテ)＞導入

2010年より慶応義塾大学との先行的実証事業・研究により介護現場で蓄積された約100万件にのぼる「気づきデータ」を活用し、2020年、介護の質を高めるスマートフォンアプリ＜MIMOTE＞が完成。こうほうえんでは『よなご幸朋苑』を中心に10年間データ提出とアプリ開発に協力してきました。

このアプリは、介護職の「気づき」をデータ化しケアの改善に繋げていくこと、記録をその場で入力することで職員の記録時間を短縮し仕事の効率性に繋がることを目的としています。2021年3月までに鳥取県内の全ての特養・老健でMIMOTEを活用しての入力を行い、4月からは、東京の特養にも導入を行い、今後はグループホーム・サービス付高齢者住宅においてもMIMOTEを活用していく予定です。

データを活用し新人職員の教育にあてることで、利用者一人ひとりにあったケアを行い、より良いケアの提供を行っていききたいと思います。



寄附者 一覧

運営に活用させていただきます。ご支援ありがとうございました。 ※令和3年4～5月に寄付をいただいた皆さま(五十音順)

石田自動車商会様/大坪正人様/古志谷恭子様 ほか3名

ボランティア 一覧

貴重な時間をいただき、厚くお礼申し上げます。 ※令和3年4～5月にボランティアにご参加いただいた皆さま

<さかいエリア>

- 車椅子清掃…酒井金壽様
- 手作りの絵手紙を寄贈…境港市ことぶき連合会様
- アレルキャッチャーマスク、保湿ローションを寄贈
…東洋羽毛工業株式会社(岡山営業所)様
- 手作りのミニゴミ箱を寄贈…日赤奉仕団様

<なんぶエリア>

- 生活補助、レク補助…尾原様/須田様/藤山様
- 大正琴の演奏…林英子様/建井幸子様/都田久恵様
- 読み語り、ビスターレサポーター…秋鹿芙美子様

<西東京エリア>

- 傾聴…2名
- 美化活動…1名
- 植栽活動…5名

<南東京エリア>

- フラワーアレンジメント…アトリエ金木犀様
- 生花の寄贈…国井初江様/弥永菊恵様
- ピアノ演奏…松本麻利様
- スタッフ用菓子詰め合わせ寄贈…江藤浩子様



法人本部事務局

〒683-0853
鳥取県米子市両三柳1400
TEL:0859-24-3111 FAX:0859-24-3113
フリーダイヤル:0120-418-658
E-mail:welfare@koho.jp

東京事業本部

〒169-0075
東京都新宿区高田馬場4-3-7KSビル203号室
TEL:03-3365-1331 FAX:03-3365-1339



こうほうえんは
ISO9001-2015
(品質マネジメントシステムの国際規格)を
認証取得しています



こうほうえんは
社会福祉法人として初めて
おもてなし経営企業に選定されました



こうほうえんは
社会福祉法人として初めて
ハイサービス日本300選に選定されました

詳しくはHPへ



こうほうえん 検索

<https://www.koho.jp>